



函館市 御中



重要文化財旧函館区公会堂 展示設計企画提案

2018年10月18日

株式会社 乃村工藝社



- 旧函館区公会堂の目指す姿 -

公会堂は「公衆の会議・会合のための建物」。

私たちは、「保存」とは“モノを大事に使っていく”という、当たり前の行為の延長にあると考えています。

旧函館区公会堂は、時代や運用者が変わっても、函館市民が大切に使い続けてきたからこそ、今も状態良く残っています。

明治の頃と同様に、人で賑わい、市民の日常に寄りそった活用の場であるからこそ、保存すべき建物として、これから先も継承されていく文化財建築であると私たちは考えます。

- 重要文化財 旧函館区公会堂 保存修理工事の意義 -



歴史・文化・技術・景観・環境など
街の誇りを受け継ぐための

保存

価値創造・集客による資金確保など
今を生きる人が使うからこそ残る

活用

往時の姿を残しつつ、みんなのための新しい拠点となる
未来の旧函館区公会堂

(保存視点) 公会堂ってこんなところ

『重要文化財旧函館区公会堂保存活用計画』
H29年3月 函館市

保存すべき背景

公会堂の立地・環境

・函館発祥の地

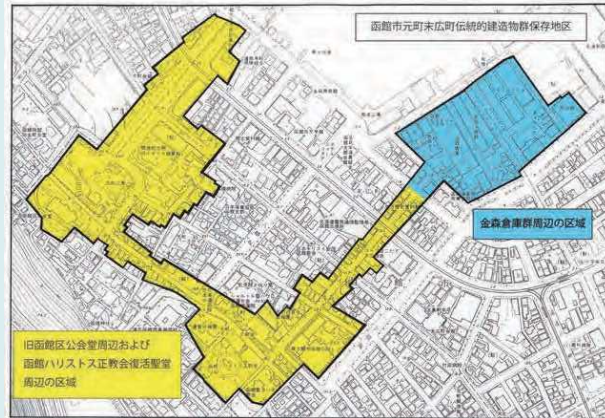
—「西部地区」と呼ばれる函館山の麓は、函館港開港の地。

・函館の政治的な中心地

—函館市元町にあり、前面の元町公園は、かつて松前藩や江戸幕府の役所や北海道庁函館支庁が置かれた。

・「伝統的建造物群保存地区」(伝建地区)

—教会や領事館などの洋館、和洋折衷様式の住宅が立ち並び、異国情緒漂う町並み。



函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区伝統的建造物 位置図
出典：函館市 HP 伝統的建造物群保存地区の概要

公会堂のなりたち

・明治40年(1907)の大火で、旧函館区富岡町(現函館市弥生町)の町会所、また同所にあった商業会議所が焼失。

新たな集会所・商業会議所事務所として、場所を移して公会堂を建設。

・総事業費は56,720円646銭。

当地の豪商・相馬哲平が50,000円を寄付し、明治43年(1910)に竣工。

・設計は、**函館区技手小西朝次郎**、棟梁は地元の大工・**村木甚三郎**。
家具は、**函館市内で制作された**と考えられている。

・当初は集会所と商業会議所に加えて、**ホテルとしての利用が計画された**。

・講演会や記念祝賀会・特産品展覧会・品評会・洋画展覧会・音楽会など各種イベントが催され、**市民に親しまれてきた**。

・明治44年に皇太子(のちの大正天皇)が来函の際、宿舎として貴賓室を使用。

・戦後は、国立函館病院や函館地方海難審判所など**様々な用途に転用**。

・昭和49年に**国の重要文化財に指定**

・昭和55～57年に半解体修理を実施し、**有料観覧施設として公開**。
市民団体による各種コンサートが定期的に開催されるなどの活用。

弊社分析

市民・観光客にとっての公会堂は？

・函館観光客数の増加に対し、公会堂入館者数は減少



公会堂の入館者数

出典：『重要文化財旧函館区公会堂保存活用計画』
H29年3月 函館市

・市民や日常利用向けのイベントが少ない

—2015年の市内外の音楽団体主催/指定管理者主催のコンサートやその他イベント開催での参加者は11,094名。
年間約15万人の入館者数に対して、市民向け活用イベントは1/15の割合。

・“公会堂の保存すべき価値”のPR不足

—伝建地区内の建造物の保存・活用の状況が様々。

⇒公会堂を特に保存する必要性が伝わりにくい。



公会堂の保存すべき価値

建築的価値

- ・公会堂(建築用途)としての古い遺構としての価値
- ・地元の技手・大工により建てられた大規模な洋風建築
- ・内装がよく分かり、当時の生活様式の一部を探る上で貴重

歴史的価値

- ・歴史的町並みにおけるランドマーク的存在
- ・多くの人々に親しまれる地域の中心的施設

弊社分析による公会堂の実情

- ・函館観光客数の増加に対し、**公会堂入館者数は減少傾向**
- ・市民や日常利用向けのイベントが少ない
- ・“公会堂の保存すべき価値”のPR不足

保存のための展示設計企画ポイント

- ①保存に一役買いたくなる、来館者・市民の参加性が高い展示
- ②創設から現代まで公会堂に関わる人々を顕彰する演出・展示
- ③先人たちが築いた建物・内装・家具などを“魅せる”
- ④保存する空間/活用する空間を使い分け、“保存の技”
自体も見て、学べる展示

(活用視点) 公会堂を取り巻く社会動向

活用推進の背景

2019.4.1より文化財保護法の改正が施行

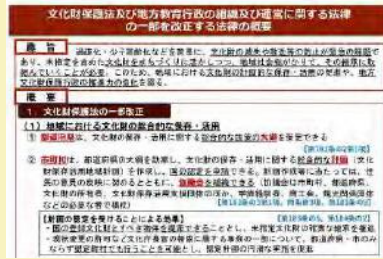
市町村に権限を移譲し、保護中心から保存と活用の両立を目指す方針になる。

・市町村の判断で活用計画を作成可能

一市町村が作成した活用の地域計画を国が認定すれば、史跡に仮設案内所を設けたり、景観を良くしたりできるようになる。

・観光・地場産業と連携しての文化継承

一計画作成では、住民＋協議会を組織できる。
協議会は市町村、都道府県、文化財の所有者、文化財保存活用支援団体のほか、学識経験者、商工会、観光関係団体など、地域社会総がかりで取り組んでいくことが可能に。

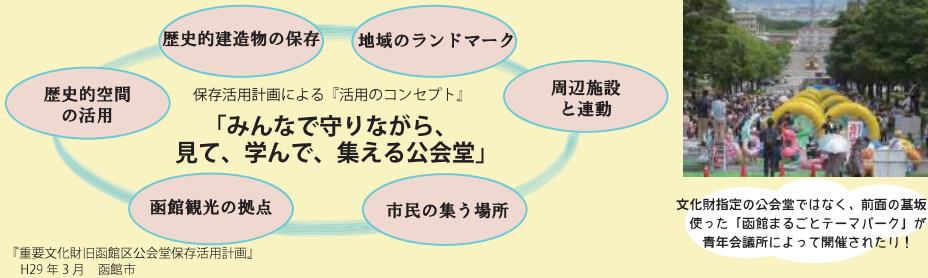


函館市の計画

・重要文化財としての建物の保存に影響を与えないことを最優先

・その上での公会堂にふさわしい活用をする

一現状の有料観覧施設としての公開を図りながら、各施策に対応した活用計画とする。
さらに、かつて地域の集会所として利用されていた性格を踏まえ、会議やイベントでの利用など市民活動の場としての活用方策を盛り込む。



市民の声

・Gスクエア主催「函館の未来を考える 観光施設向上ワークショップ」を受けて

公会堂の未来イメージ①

「観光のための施設」から「市民が誇れる施設」へ、そして町自体を誇れるように

公会堂の未来イメージ②

市民が集うから観光客も集う、大人のまち・はこだて

公会堂創建当時の町人や家具作り職人の暮らし、天皇宿泊のための工夫など、視覚化展示が欲しい。ARなどで、自分で見つける楽しさをも!



教育や啓発活動の場としての活用(各学校との連携、こども向け歴史教室など)

飲食スペースとしての活用。バルやレストラン、特にディナータイムに開放してほしい

バル街も近いので、「大人が集う場所」がふさわしい。ビアガーデン、郷土料理バル、歴史を学べるレストラン

坂の一番上にある見晴らしの良さを活かし、プロポーズの聖地に! 五島軒とコラボするなど、函館が誇る周辺の施設と連携したプライダサービスを行うと、地元の若いカップルなどが来るかも!

展示施設としての公開は継続。地域の食材を使ったスープや北海道産あずきを使ったおしるこでもてなしたり、見るだけではなく体験を提供しては...

趣旨 : Gスクエアのプロジェクト事業として、市民(とくに若者)と一緒に観光地 函館の未来を観光客目線、市民目線で考えるワークショップを行った。

開催概要 : 2018年2月10日(日)、中学生以上の函館市内外の参加者20名で、公会堂を見学し、Gスクエアにて2班に分かれてワークショップを行った。

本市における歴史的建造物や重要文化財の状況や課題を、観光客だけでなく、市民がより良く生活するための活用につながるよう、これから求められる役割やあり方について真剣な意見交換が行われた。

公会堂の活用でできること

・国だけでなく、市民主体の未来の街づくり

一地域に埋もれた歴史文化資源を、行政、民間、学識者、住民まで、あらゆる層の人々が守り、継承し、未来の街づくりに活かしていくことができる。

・官・学・民による文化財を活用した地域創造の拠点づくり

一函館市 × 北海道大学観光学高等センター × 乃村工藝社の連携により、整備と学びと集客を起す拠点にすることができる。

・活用の強化で、「函館」ブランドのアップ、インバウンドの拡大

一文化財建築の活用を拡大することで、函館市全体の魅力アップにつながる。

活用に向けた市民の声(WSより)

- ・「観光のための施設」から、「市民が誇れる施設」にしたい
- ・見るだけではない体験がある場所へ
- ・民間施設ではないメリットとして、周辺の良いところと連携
- ・西部地区ならではのバル街を活かした地元連携をしたい

活用のための展示設計企画ポイント

- ①市民の声を取り入れた計画を立案(以降の提案内に市民案あり)
- ②地域事業者の利用を柔軟に受け入れ・展開できるよう、フレキシブルな家具・什器を導入。
- ③市内関連施設・観光名所と連携を図り、周遊の拠点として活用されるソフト試験の場とする。
- ④来館者・施設利用者に気持ち良くお金を使ってもらえるサービスを提供し、施設活用の継続性を保つ。

未来の旧函館区公会堂が、来館者を迎え入れる空間として生まれ変わるための2つの視点

1、函館の街を、人を、愛した創設者たちの記録

公会堂を創り、市民のための使い方を模索した創設者たちの想いと技の軌跡。

その記憶・記録から建物の魅力を一層浮かび上がらせます。

2、後世に引き継ぐ私たちの物語

市民主体で、時代に合わせて使い続けられてきた公会堂。

今を生きる我々も、後世の人に思いを馳せてもらえる「在りし日の公会堂」をつくります。



— 展示 concept —

- HEROES JOURNEY -

ヒーローたちの軌跡をあなたと体験する I do KOKAIDO.


建築的価値の高い公会堂の建設に尽力したヒーロー、
様々な会議やイベントを開催し、公会堂を賑わせてきたヒーロー、ヒロインの軌跡（JOURNEY）をたどります。
そして、これからの公会堂を保存・活用し、次世代へ継承していく、来館者自身が
ヒーロー、ヒロインとして、「主役」であることを感じさせる展示空間とします。



展示空間の保存を第一義にしつつ、下記案のようなプログラムを開催することで、“市民がつくった場・もの”を生み、市民が何度も来館してくれる場になると想定します。

以下プログラムは現状、あくまで案となります。施設の在り方として市民集客を大事にすべきと考えますが、運営方針あってこそとなるため、本ご提案は、展示空間にプログラム企画をご提案することで、使い方のイメージを拡げていただくためのものです。

エリア	集客ポイント	概要	運営イメージ
<p>大食堂～KOKAIDOカフェ～</p>	<p>朝もやを見に、夕日を見に、毎日ちよっとの時間で立ち寄れる、スタバやドトールのようなサードプレイス。 (カフェの利用者はレシートを見せれば無料入館など)</p> <p>市民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食スペース(バルやレストラン、特にディナータイムの開放) ・見晴らしの良さを活かし、地元の若い子も来るデートスポットへ ・地域の食材を使った温かい飲食を提供しては ・市民生活を豊かにする「たまり場」としての活用 	<p>文化財建築の保存を踏まえ、大がかりなキッチンではなく、テイクアウトも可能なドリンクやフィンガーフード提供など簡易なカフェとして活用・運用を想定。(飲食イベントの開催ができる移動型キッチンなどで建築に害のない運用)</p>  <p>イメージ:三菱一号館美術館 cafe1894 1894年、銀行営業室だった空間を復元したミュージアムカフェ&パー</p>	<p>運営プログラム案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大食堂全体を活用した広いカフェ/装飾・家具・大テーブルを活用した企画展 ・市民とつくる“カフェのメニュー開発” ・事業者の集会・食事会などの事業者利用/マナー教室やママ会などイベント利用    <p>市民とつくるカフェのメニュー開発 学生・事業者などとメニュー開発 →市民・観光客による人気投票 →季節ごとで飲食提供</p>
<p>西側予備室 ～KOKAIDO - craft体験</p>	<p>大切な文化財を、見るだけでなく、触り、検証し、真似して受け継いでいく、親子のモノづくり教室の場。 (汚れが発生する作業は庭の一角を想定)</p> <p>市民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育や啓発活動の場としての活用(各学校との連携など) ・歴史を最大限活かした市民によるストーリーの再現 ・函館産の職人・家具の形跡をたどり、モノづくりを見せる場にしては 	<p>通常は、当時の建築・家具等を観賞できる保存展示室。復元・再現などの参加型「クラフト体験」の開催を想定。体験を通して、過去の技術を学べる場へと活用します。</p> 	<p>運営プログラム案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子づくり教室…庭で椅子づくり→室内で椅子に壁紙貼り ・ステンシル教室…壁紙の模様を参考にステンシルで壁紙づくり ・スプーンづくり教室…公会堂でスプーンを作り、西部地区の飲食店では割引、など周辺施設と連動。    <p>お庭 予備室</p>
<p>寝室・その他 ～KOKAIDO - HOTEL体験</p>	<p>大切な文化財を、見るだけでなく、自身の手で慈しみ、綺麗に継承していくための体験と学びの場。</p> <p>市民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育や啓発活動の場としての活用(各学校との連携など) ・歴史を最大限活かした市民によるストーリーの再現 ・「観光のための施設」から「市民が誇れる施設」へ、そして「街自体を誇れるように」 	<p>通常は、当時の建築・家具等を観賞できる保存展示室。参加型プログラムとして、「ホテル・スタッフ体験」を実施。ふだんは立ち入れない展示室で、貴重な建築を大切に扱う技術体験を学べる場とします。</p>  <p>イメージ:イタリア大使館別荘展示 既存はベッドのフレームのみ。 寝具や化粧品道具など当時の寝室を再現する小物もディスプレイし、より再現性の高い展示を行います。</p>	<p>運営プログラム案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公会堂ピカピカWS…階段、廊下、ドアなどをピカピカにする体験(外部講師委託) ・プロの技が身に付くベッドメイクWS…設置されたベッドで体験(外部講師委託) ・美味しい紅茶を淹れられるWS…大食堂で、プロの紅茶サーブ体験(外部講師委託)  

エリア	集客ポイント	概要	運営イメージ
<p>大広間</p>	<p>普段は観光向けの静かな大広間が、明るくにぎやかなイベント会場に変身する、「西部地区のステージ」へ。</p> <p>市民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「観光のための施設」から「市民が誇れる施設」へ、そして「街自体を誇れるように」 ・市民生活を豊かにする「たまり場」としての活用 ・音響設備を活かしたイベント会場として活用（コンサートや晩さん会、結婚式など） ・ピアノは予約制にして、弾きたい人には、舞台の練習の場として提供したり、演劇やコンサートの場として、「もっと開いた場」へ 	<p>通常は観賞エリアで、イベント利用も可能とします。市民コンサートなど既存のイベントに加え、イベント開催等レンタルスペース活用の使い勝手を考え、空間は展示等は置かず広く開放します。設計では、建築の雰囲気に合わせてソファやイスを設置。市民の方がイベントをきっかけに、公会堂内へ足を運びたいような運営をサポートする設計をします。</p>	<p>運営者が窓口となり、レンタルスペースとして、広くイベント発起を公募。観光客の来館とパツティングしない夜のイベント開催などに重きを置いて公募すると、立地の良さも活きた活動ができると想定しています。</p> <p>【運営プログラム案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベチャクチャナイト(1人3分で様々なことをプレゼンテーションするパーティー) ・函館産アルコール試飲会 ・バル街協賛店を集めた試食パーティー など 

— NEXT STEP —

将来的に長期間にわたって市民に参加してもらうために…



市民の皆さんが体験するだけでなく、皆さん自身が企画からご協力頂き、さらに地域で活躍している方にも体験・参加型プログラムをつくっていくことが長期参加につながる。

市民

- 地域・施設に必要なテーマ
- 1) 施設魅力アップ
 - 2) 観光活性化
 - 3) コミュニティ形成
 - 4) 仕事体験
 - 5) 地域交流

×

エキスパート

- 若者たちと協働し、
函館の魅力向上に貢献し
たいと考える、地域で活躍
している専門性の高い人材

=

体験・参加型プログラム

- 市民・観光客が
ワクワクするプログラム
- 1) 飲食体験
 - 2) パフォーマンス体験
 - 3) クリエイティブ体験
 - 4) 文化・学び体験
 - 5) 売る・買う

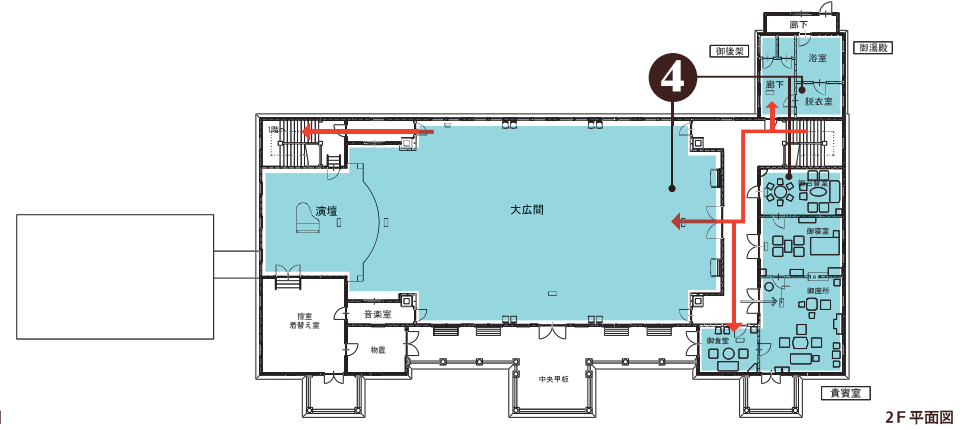
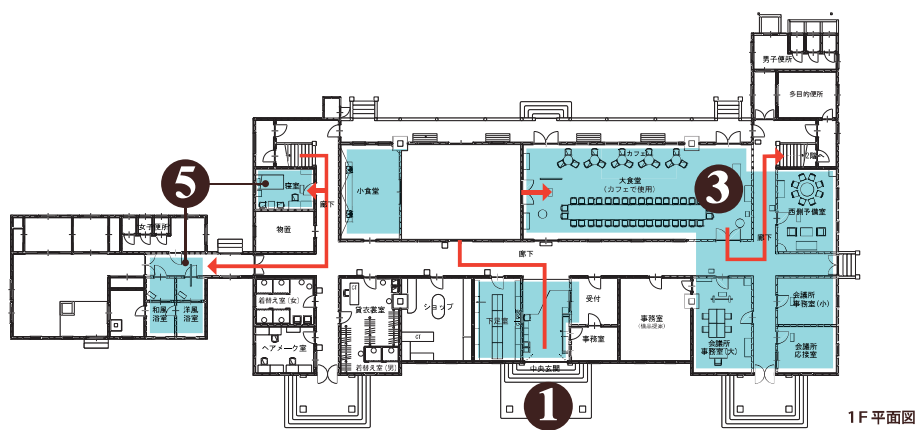
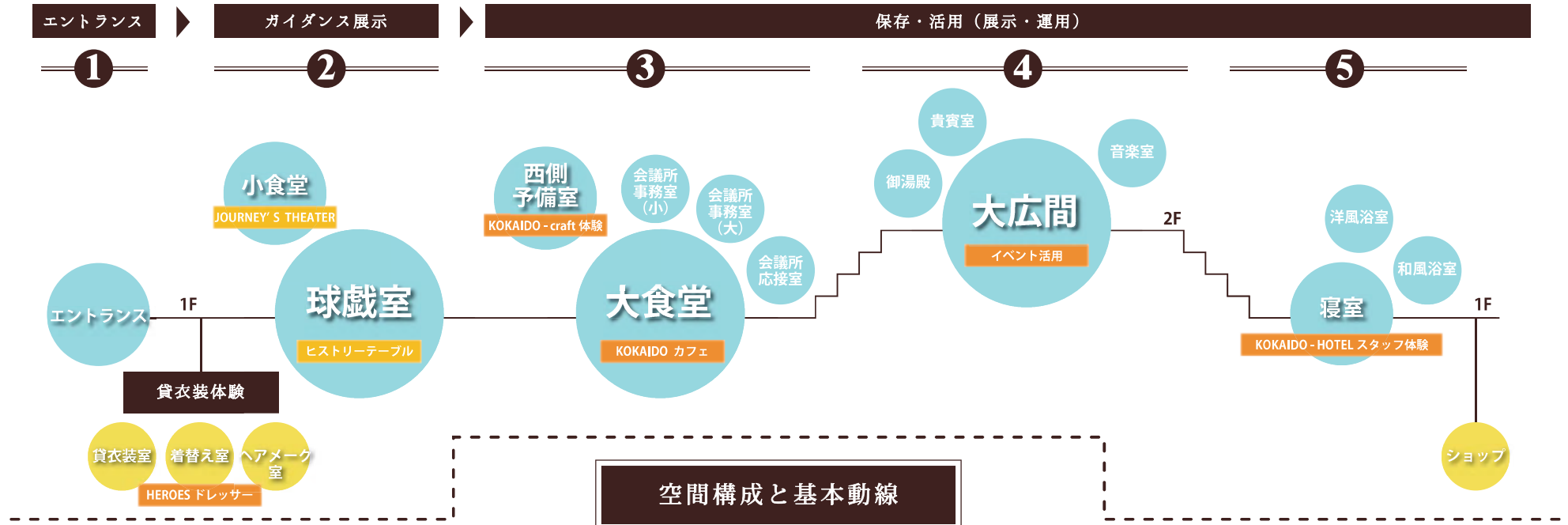
※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくこと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

- HEROES JOURNEY -

ヒーローたちの軌跡をあなたと体験する I do KOKAIDO.

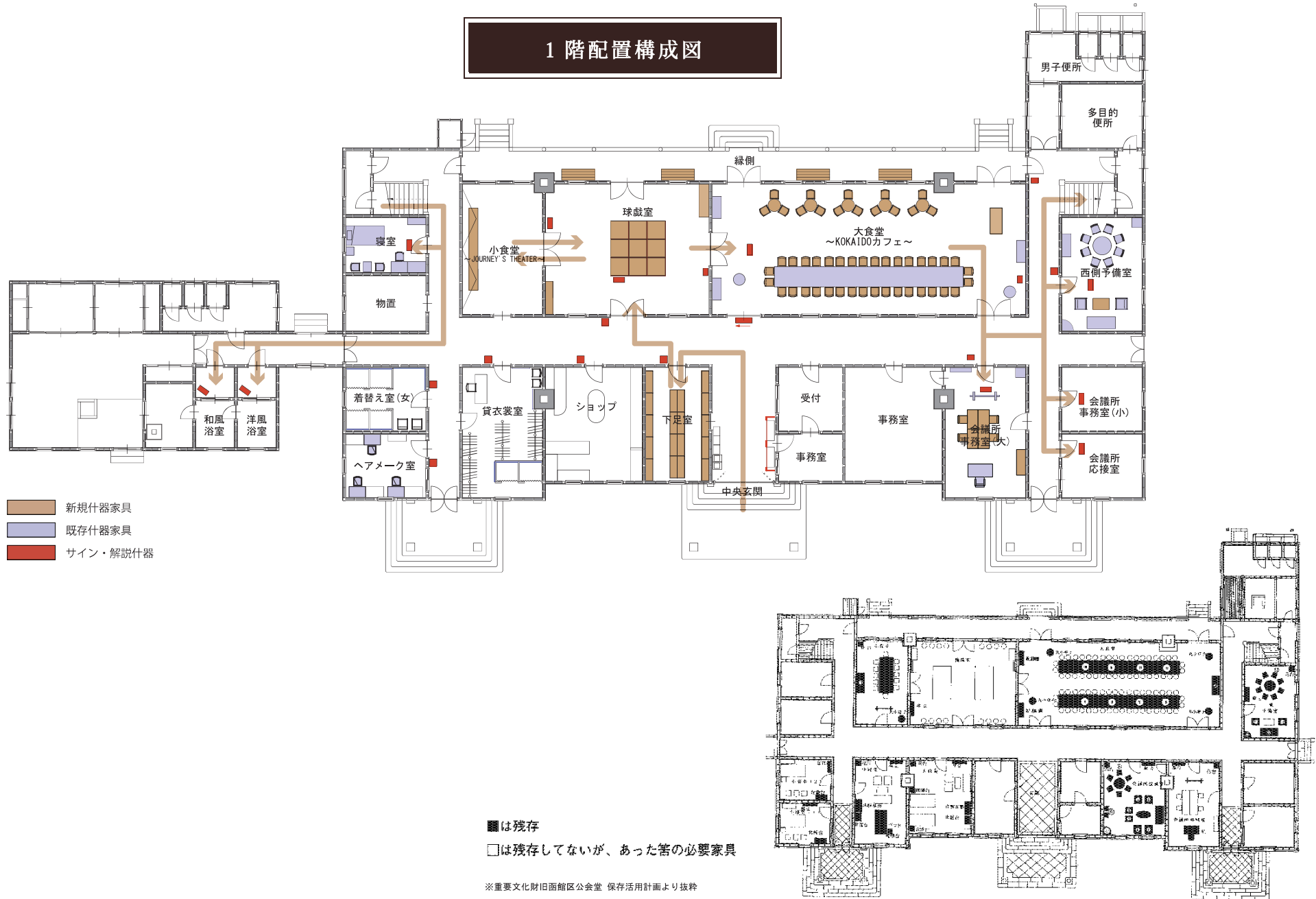
動線フロー

まず始めに、公会堂の歴史や建築的価値について、映像や模型を利用したガイダンス展示をご覧ください。
 公会堂の見方・注目ポイントを踏まえ、実際に公会堂内外に施された当時の建築意匠や家具を再現した空間をめぐります。
 過去のヒーローたちの軌跡をモノ・ヒトから学び、さらに往時のにぎわいを彷彿とさせる「大食堂～KOKAIDO カフェ」や
 日常的に繰り広げられる活用プログラムを、未来のヒーローとなる皆さんに体験いただきます。



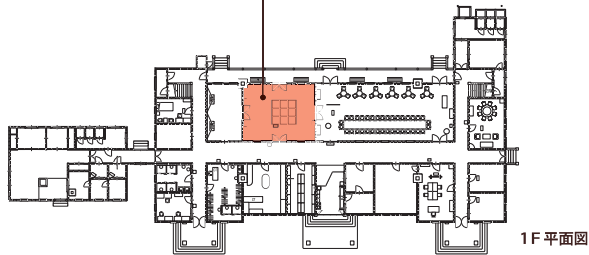
※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくこと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

1階配置構成図



※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくこと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

～ 球戯室 ～
“公会堂の歴史に会う始まりの空間”



1 ～ 球戯室 ～

公会堂の創設・役割の変遷、文化財指定に至った保存状態の良い当時の技術の跡、ヒーロー・ヒロインたちの軌跡をたどる始まりの部屋です。

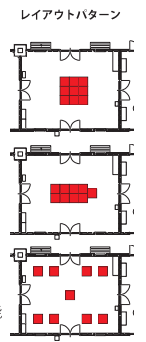
「建物に関する保存修理の意義やその経緯」については、建物全体模型や資料、4Kカメラによる保存修理工事の映像記録などをパッチワークのように楽しく配置します。



展示案（プログラム）

歴史テーブルの上には、大工の村本甚三郎氏、技手の小西朝次郎氏のミニパネルが解説パネルや展示品の説明をしてくれます。

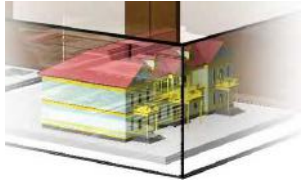
歴史テーブル（展示台）について



- ・空間意匠の妨げとならない高さ（550mm）に設定します。
- ・展示内容の変更やイベント時にフレキシブルな利用が可能
- ・個別メンテナンスが可能

展示アイテム

① 模型展示



公会堂全体を俯瞰してみることのできる模型を設置します。解説パネルだけでは表現しきれない部分を視覚化してお伝えし、展示空間にインパクトを与えます。

② 4K映像モニター



ご支給予定の保存修理工事の記録映像（4Kカメラ撮影）を有効活用します。球戯室として使用されていた頃を彷彿とさせるような、ビリヤード台をモチーフとした映像演出を取り入れます。

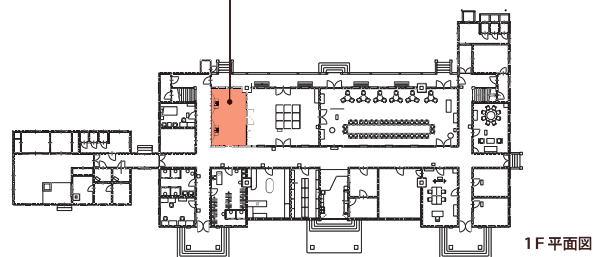
③ 触れる展示



活用プログラム案
さがそう！匠たちの技
小屋組みに保管されている古材を活用して、建築に施された匠の技を展示。実際に触れることで、建築への興味を深めて頂ける展示となります。また、館内のどこに匠の技が施されているのか、探偵気分でご館内探索するきっかけづくりになります。

※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくこと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

～ 小食堂 ～
“住時のにぎわいへタイムスリップ！”



2 ～小食堂: JOURNEY'S THEATER～

小食堂は、時を遡る趣向で明治43年の公会堂創設に尽力したヒーローたちの軌跡を追う「公会堂の歴史」と保存のための記録(4Kビデオ撮影による保存修理工事の映像記録素材)を編集し紹介する「公会堂の保存修理」の2つのコンテンツで構成していきます。またコンテンツマネジメントソフトの装備により、多様な映像作品やイベント予告映像などのご提供コンテンツも 簡単放映可能とします。

①公会堂の歴史 (ガイダンス) : 3分



・海上貿易で栄えた函館。
遠景から現在の公会堂の全景へ。

・函館の町並みの様子が流れて行きながら、
どんどん過去の町並みにトリップしていく。
明治末期頃の町並みや人々の暮らしが
垣間見える写真から、当時の公会堂へと遷移。

・相馬哲平氏が現れ、公会堂創設の経緯や
時代を経て様々なイベントに使われた
様子を解説していく。

②公会堂の保存修理 : 3分



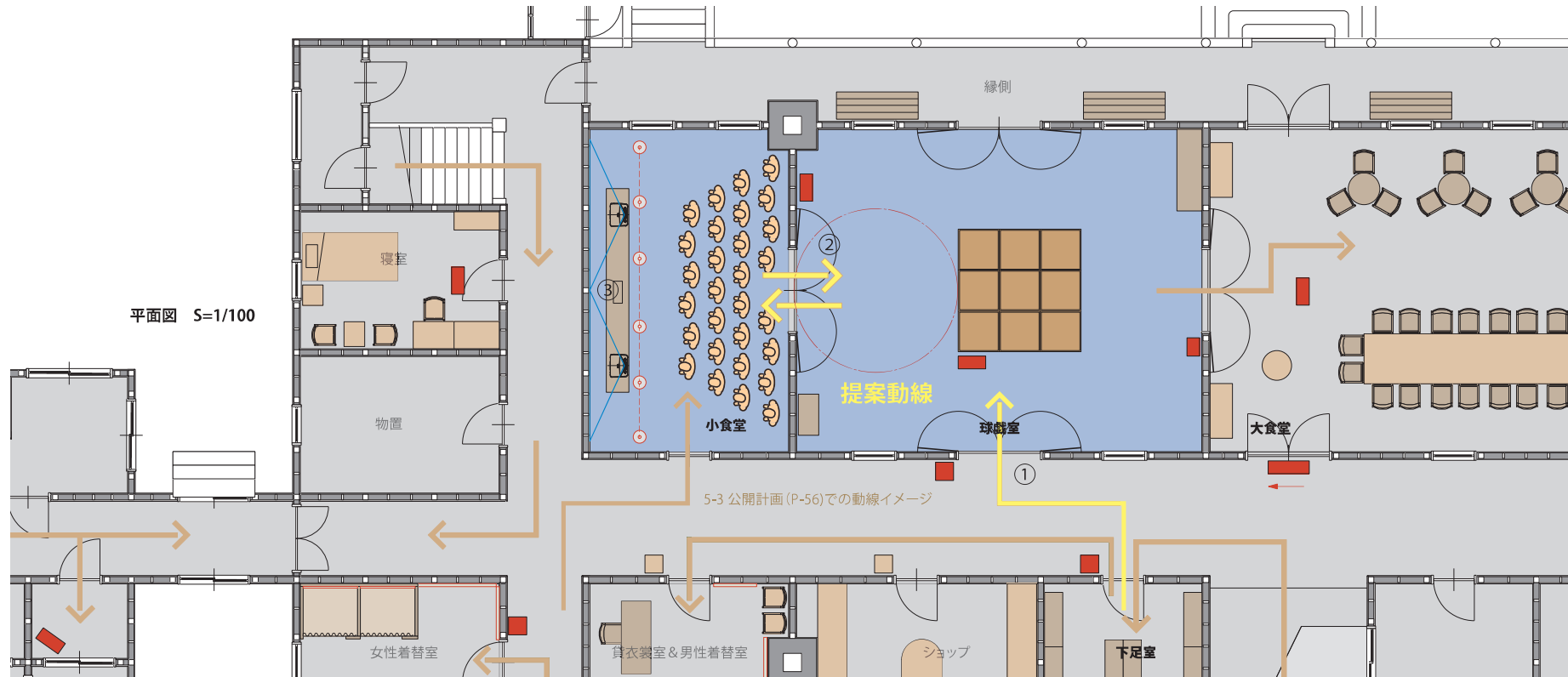
ご提供となる“保存修理工事の映像記録素材”を活用したショートムービー。

映像ライブラリーの更新や管理が簡単です。

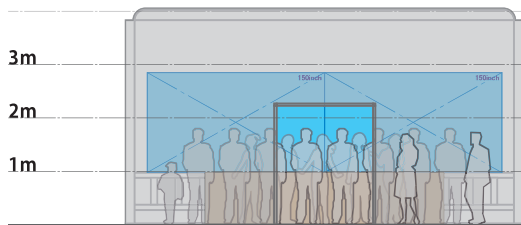
2本のテーマ映像に加えて、新しい映像を簡単に追加し管理できるコンテンツマネジメントを
装備します。例えば、参加型プログラムとして、市民や大学などと連携して制作するムービー
を放映するなど、今後の活用計画に向けたチャンネルづくりも考えられます。

来館（入場時）の印象を高め、公会堂への速やかな理解促進を図るために、ガイダンス空間にはシアターを設定することが適切であると考えました。

クローズ型のシアターではなく、自由に出入りできる空間を前提にしています。

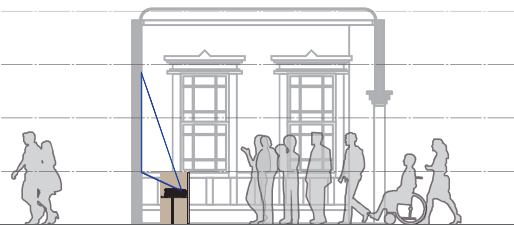


球戯室からの見え



間口(開口)寸法は、約1.8m

ガイダンスシアター(小食堂) 断面図



超短焦点レーザープロジェクター×2台

設定のポイント

- ① 一般来館者においては、下足室から球戯室への動線が主であると考えます。
- ② 出入口の扉は常開として、自由な出入りを可能とします。
そのため、球戯室を基点/主動線として、シアター(小食堂)は副動線とするのが運用性が高まると判断しました。
※プロジェクターの輝度が高いため、空間照度調光や(窓以外の)遮光は設定しない
- ③ コンテンツは、プロジェクションマッピング手法による空間演出とするため演出された映像壁面への正面性を重視します。

2階配置構成図

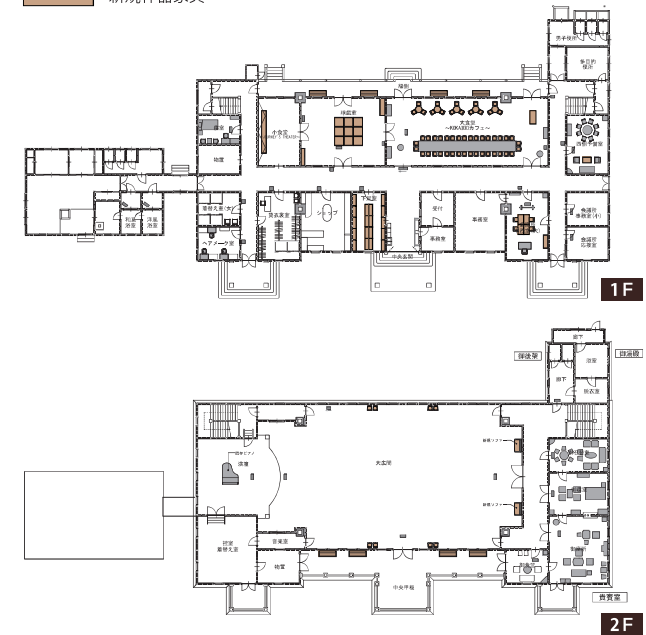


















新規にご用意する家具については、重要文化財旧函館区公会堂 保存活用計画より種類、員数を引用、抜粋しました。

新規に導入を図る家具は、用途や雰囲気重視しながら、調達性、堅牢性／使用性を念頭に、既成家具から厳選していきます。

家具プロット

■ 新規什器家具



玄関	スツール	球技室	コンソール (スタンブ台)	球技室	ハンフレットスタンド	下足室	下足入れ	下足室	ロッカー (貴重品)		
											
	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	同等品	イメージです。新規造作が同等品となります	イメージです。新規造作が同等品となります						
緑側	ベンチ	大食堂	チェア	大食堂	カフェ チェア	大食堂	カフェ テーブル	会議所事務室 (大)	キャビネット		
											
	材質：オーク (ナラ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：オーク (ナラ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品						
会議所事務室 (大)	デスク	会議所事務室 (大)	チェア	西側予備室	センターテーブル	大広間	チェア	大広間	ソファ	甲板	デッキベンチ
											
	材質：マホガニーもしくは同等品	材質：マホガニーもしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品	材質：ビーチ (ブナ) もしくは同等品					

- HEROES JOURNEY -

ヒーローたちの軌跡をあなたと体験する I do KOKAIDO.

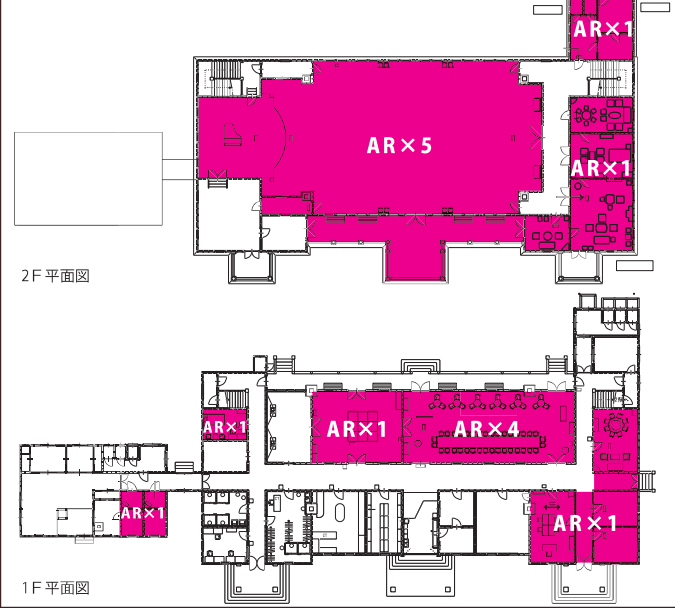
～展示計画ポイント①～ 多言語対応 AR解説システム

【基本仕様】

- ・館内展示品（15ポイントを想定）にARマーカ―を配置します。
- ・入館者は各自スマートフォン用アプリ（Apple / Google）からダウンロードし使用します。
- ・アプリでARマーカ―を読み取ると、その展示品の解説テキストと画像（各ポイントにつき最大5枚）を表示します。
- ・説明テキストは多言語対応します。

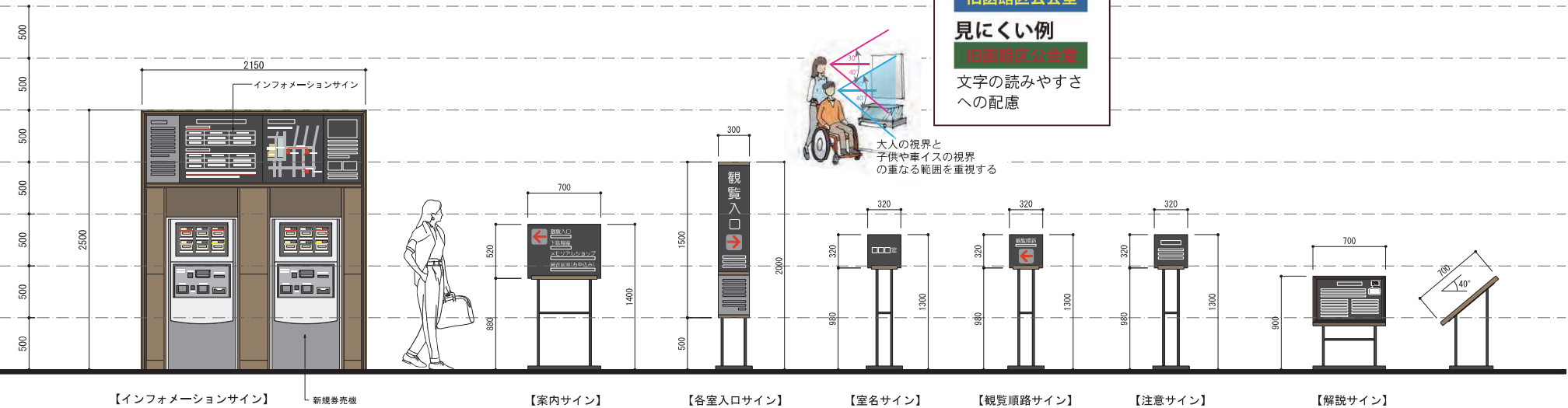


【AR マーカ―配置想定箇所】
館内展示品（15ポイントを想定）

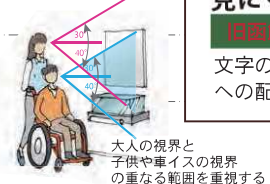


～展示計画ポイント②～ サイン計画について

全館サインをデザイン統一し、視認性等に配慮したユニバーサルなデザインとします。健常者の方だけではなく、子どもや車いすの方にとっても見やすい高さを計画します。



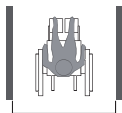
旧函館区公会堂
見やすい例
旧函館区公会堂
見にくい例
旧函館区公会堂
文字の読みやすさへの配慮



※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくこと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

～展示計画ポイント③～
バリアフリーについて

① 展示室通路動線・見通しの確保



通路幅
1200mm以上

展示室動線は、車いすの方でも通行しやすい通路幅を確保。さらに見通しの良いレイアウトで防犯性を向上させます。

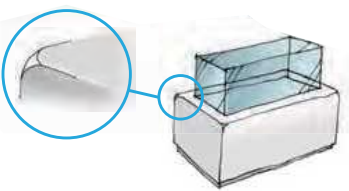
右記図面上に幅員記載

② 腰掛け・ベンチを要所に配置

縁側や2階大広間などの要所にベンチやちょっとした腰かけを配置して高齢者や観光客の利用に配慮します。

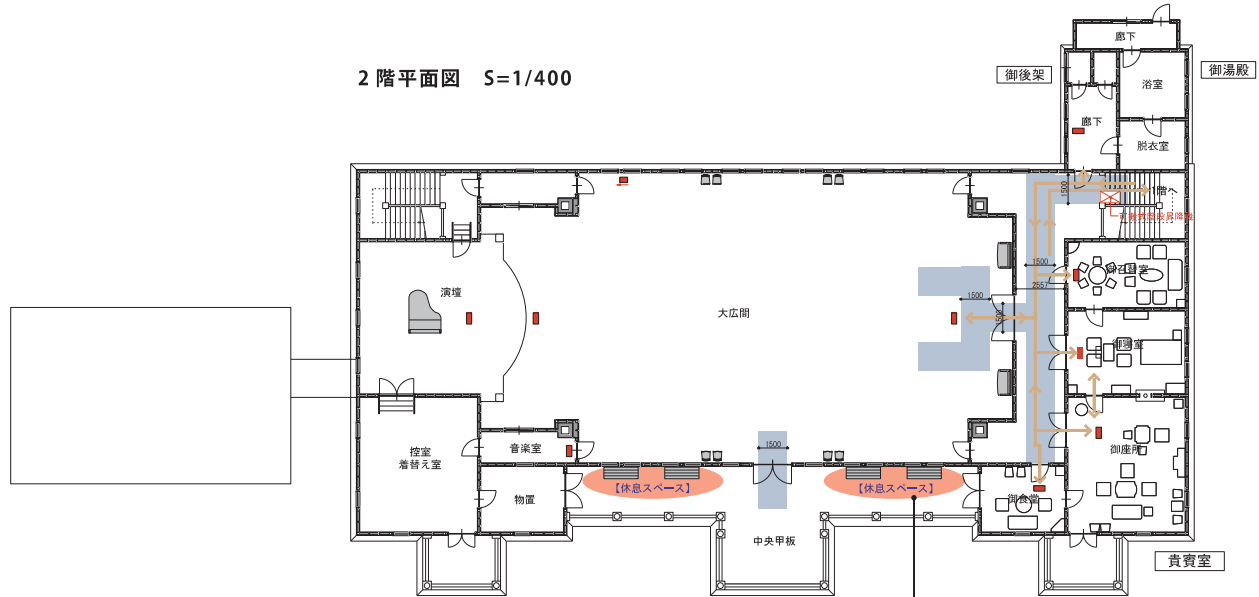
③ バリアフリーな展示環境の創出

映像などの最新技術や模型・グラフィック等の基本表現をバランスよく用いて、各々の興味レベルや感覚に配慮するとともに、グラフィック等の目線の高さ設定、色彩・配色の配慮エッジ部分の丸みなどユニバーサルデザインに配慮します。

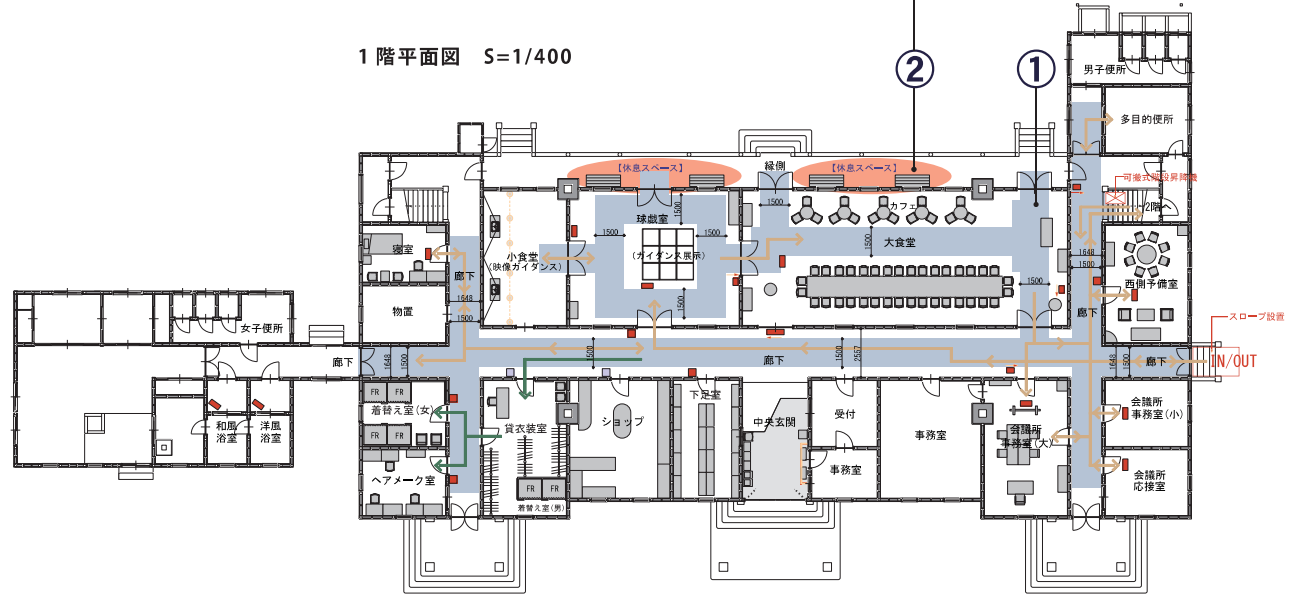


ケースやテーブルの角を丸めて安全性を高める

2階平面図 S=1/400



1階平面図 S=1/400



※この企画書には、著作権法に定める検討の過程における利用等として、著作権等の許諾を得ていない著作物等が一部に含まれている可能性があります。このため、この企画書は社内検討資料としての使用のみにとどめていただくことと予定しており、それ以外に使用された場合には当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

オプション提案

AR対応
タブレット貸出

アプリ対応不可の方向けに、貸出用のタブレットを準備いたします。(無償)



JOURNEY THEATER + α

(インタラクティブ映像)

顔認証で明治時代の公会堂のパーティー列席者のような装いへ。画面上のドレスアップは施設内のフォトスポットとしても効果的かつ、既存の貸衣装体験のPRにもつながる仕様を想定します。



シアター映像のシーン2「パーティertime」になると顔認証により、鑑賞者の衣装が明治時代の装いへ変身!



ドレスだけでなく、和装や軍服など時代考証に則った明治時代の装いへ一新



改修に伴う閉館期間中に、リニューアルのメッセージを発信
—臨時展示による、施設の魅力と集客力の維持を図ります

■周辺施設での臨時展示の開催

「赤れんが庁舎」では、改修による閉館期間中に、機運醸成のための展示を計画しています(右イメージ図)。本事業においても、こうした機運醸成のための臨時展示を周辺施設等での開催を計画し、2年後のオープンに向けたメッセージ発信を行うことを提案いたします。



参考HP:
富岡製糸場西置簾所
保存修理工事仮設
見学施設



展示イメージ



姫路城修理見学施設
「天空の白鷺」



■修理期間中で見られない特別な仮困り展示

工事のための仮困り等の設備を活用し、「修理期間中しか」見ることのできない展示をご提案いたします。国内外の城郭や歴史的建造物の修復において行われている取り組みで、閉館中の来館者への少しばかりのおもてなしとなります。

施設運用でできる募金・運用資金づくりプロジェクト

①【TimeAge FREE Wi-Fi】の導入

Wi-Fi 接続初期画面に広告を表示し、その広告収入から得られた利益の一部を、文化財保護費用として観光地に還元するシステムの導入を検討します。専用アプリ無く、スマートフォンで施設の写真や解説を閲覧できます。



■ユーザーは無料でWi-Fiが利用可能

多言語対応しており、日本人観光客はもちろん、ほとんどの外国人観光客も言語の問題で困る事なく利用が可能です。

■専用アプリ不要、起動画面には360度パノラマVR

スマートフォンやタブレット端末にインストールされたWEBブラウザがあれば利用可能です。360度パノラマVR内に広告を配置しており、ユーザーは360度パノラマVRコンテンツを楽しみながら、かつ広告情報にも触れる事が可能です。

■周辺観光情報、緊急災害時の情報提供

周辺の飲食店やお土産物屋等の情報をユーザーに提供して来店を促し、同時に観光地周辺の地域活性化も目指します。また、避難場所情報も提供し、災害時のインフラ確保と安全性確保にも役立ちます。

■広告収入の一部を文化財保護費用として還元

貴重な文化財を未来へと残すべく、広告収入の一部を景観保全や文化財保護費用として観光地に還元いたします。

②【ふるさと納税】を活用した寄付

ふるさと納税を活用した市民からの寄付を募るご提案です。返礼品のほか、寄付者の名前の提示など、自らが参加した事業としての愛着を持つことができるため、公会堂修復や展示での導入を積極的にサポート致します。



■公会堂への個人の寄付を募る

公会堂創設には、地元豪商の相馬氏による支援が大きかったように、市内外にお住まいの方からのふるさと応援を募ります。

■公会堂への企業からの寄付を募る

公会堂には、企業のイベント開催等の歴史も色濃く残っています。活用案に則って、未来の公会堂を利用いただく事業者さまや、応援いただける企業からの寄付を募ります。